

# かきくけ航海日誌

滋賀県立びわ湖フローティングスクール  
〒520-0047 大津市浜大津5丁目1番7号  
<http://www.uminoko.jp/>



「湖の子」のタベ

「みずうみに学んで 世界の明日をみる」

「かきくけ航海」を生み出そう！

合言葉 か・・・考える き・・・気づく く・・・工夫する  
け・・・継続する こ・・・行動する

## 「五輪書」から

【所長 新庄 正幸】



かきくけ航海の「け」は、継続を求めています。長い長い道のりを一歩ずつ歩むさまを宮本武蔵の「五輪書」から学びたいと思います。世界のさまざまな国で読まれている「五輪書」は、江戸時代の剣の教えですが、現代においても世界中で受け入れられる理由がありそうです。

「千日の稽古（けいこ）を鍛（たん）として、  
万日の稽古を錬（れん）とす。能々（よくよく）  
吟味あるべきもの也（なり）」

「五輪書水の巻」の一文です。武蔵は具体的な練習日数の単位として、「鍛」と「錬」を使い分けています。

芸事やスポーツでも千日（約3年）の練習を経た動きは一生の技として身につく。

百回の練習では起こらない質的な変化が千回の練習によっては起こるのである。

従って、万日（約30年）単位の稽古を積み上げると、千日より格段の質的な高い技と

認識を得ることができる。量が蓄積すると質的な変化が起こる。

剣の達人としての極意を抽象的でなく、具体的にアドバイスしているように見えます。難題に対して、個々の問題を一つずつ丁寧に解決していけばなんとかなります。その教えは現代社会にも通じることです。

フローティングスクールが開校して今年が32年目。昭和58年に「うみのこ」が就航してから万日が経った今、「錬」の域に入り質的な変化が起こっているかと自問しつつ、「かきくけ航海」を積み重ねることでその答えを見い出しているところです。

### かきくけコーナー

1日目の消灯・就寝前には、フローティングスクールならではの「自分を見つめる時間」があります。66回航海では、タベのつどいで盛り上がった綱引き大会から気持ちを切り替えるために、1分間の黙想をさせられました。「今日一日考えられたと思う人…、いろんなことに気づけた人…？」等「かきくけこ」のふり返りをされました。

子どもたちは、目を閉じているから、周りの目を気にすることなく、自分の思いで手を挙げることができますし、教師は子どもの学びの感覚を掴むことができます。今年度乗船してきた子どもの中からも、「今までよりももっと自分が成長していることにおどろいた。」や「振り返りで考えていると、こんなにいっぱいよいことがあったなんて気づきました。」のような声が届きます。

他への気づきから、自分自身への気づきに昇華させることが、「かきくけ航海」の本質です。